

ヘリテージ・デザイン実践講座

近年、歴史的環境への社会的関心は非常に高まりつつあり、国の文化財登録制度や各地方自治体の施策によって、重要文化財以外の歴史的建物や町並みへの保存優遇措置もとられるようになってきた。また、産業施設を含む近代化遺産や、人間と自然の共同作品ともいべき文化的景観という、より広範な文化財の概念も社会に認識されつつある。しかし残念ながら、歴史的な環境を保存することの理念やデザインの在り方などについての統一的思想は見られない。特に都市内にある建築の場合、保存と開発の妥協的産物としての奇妙なデザインが横行しているのである。建物の建て替えに当たり「歴史の継承」と称して、古い建物のファサード（建物外壁）や似て非なるレプリカ（模造外壁）を新築高層ビルの足元に貼り付ける、といったデザインが、日本中どこでも見られるようになった。現代の日本の社会では、先人たちの残してくれた豊かで美しい本物の生活環境はどんどん失われ、目先の経済性をすべてに優先させた理念無き新築建物が増産されている。21世紀の日本において、我々の周りの生活空間としての都市を、真に魅力的で豊かなものにするための智慧が緊急に求められている。

《田原著：「建築と都市の保存再生デザイン」序論 抜粋》

本講座では日本と海外における指定・登録文化財の保存活用の歴史と現状を歴史的経緯を踏まえながら解説し、保存活用のデザインの在り方を学習する。そのうえで東京・横浜の指定文化財を含む文化遺産を事例に、都市における文化財の保存デザインの理念と手法を演習課題を通して習得することをめざす。

■講座名称

建築設計スタジオ2f

■講義日程

下記日程の3～5時限（13：10～18：00）

※見学会実施日は午前から実施予定

第1回： 4月23日（土）、第2回： 4月30日（土）
 第3回： 5月14日（土）、第4回： 5月21日（土）
 第5回： 5月28日（土）、第6回： 6月4日（土）
 第7回： 6月11日（土）、第8回： 6月18日（土）
 第9回： 6月25日（土） ※全て2022年

■実施場所

東京理科大学 **神楽坂校舎内教室**

■講師

田原幸夫（東京理科大学客員教授）
 萬代恭博（東京理科大学客員准教授）
 山名善之（東京理科大学教授）
 國分元太（東京理科大学助教， ※コーディネーター）

■ゲストレクチャー

川上悠介（港区立郷土歴史館 学芸員）
 「港区における文化遺産の継承について」

桂有生（横浜市都市デザイン室）
 「横浜の都市デザインと戦後建築について」

北河次郎（文化庁 主任文化財調査官）
 「近現代建造物の保存活用に関わる近年の動向」

棚瀬純孝（SANAA パートナー， 棚瀬純孝建築設計事務所代表）
 「ラ・サマリテーヌの計画について」

■見学会（4月30日， 5月14日）

神奈川県庁， 神奈川県立図書館
 港区指定文化財・旧公衆衛生院（ゆかしの杜）
 重要文化財・東京駅丸の内駅舎（ホテル内ツアー＋ミニレクチャー）

■履修方法

科目等履修生募集要項を確認のうえ、出願期間内に東京理科大学野田キャンパス理工学事務課（1号館2階）へ出願すること

- 出願要件 : 建築系大学学部卒業以上の者が望ましい
 - 出願料 : 35,000 円
 - 履修料 : 104,000 円（26,000 円 / 単位）
 - 単位数 : 4.0



募集要項はこちら

https://www.tus.ac.jp/admissions-aid/graduateschool/recruitment_students/

出願期間：2022年3月7日(月)～11日(金)

※出願手続きの詳細は要綱を確認してください

問合せ：yamanastudio2021@gmail.com



田原 幸夫
東京理科大学客員教授



萬代 恭博
東京理科大学客員准教授



山名 善之
東京理科大学教授



國分 元太
東京理科大学助教
※コーディネーター



川上 悠介 ゲスト
港区立郷土歴史館学芸員



桂 有生 ゲスト
横浜市都市デザイン室
ポートレート ©Alfie Goodrich



北河 大次郎 ゲスト
文化庁 主任文化財調査官



棚瀬 純孝 ゲスト
SANAA パートナー
棚瀬純孝建築設計事務所代表

プロジェクト演習 共通テーマ “都市の記憶”を継承する保存再生デザイン

課題 A 出題：田原幸夫

「失われた場の記憶を再生する都市公園の整備計画」

現代の東京においては、国際化する日本の首都としての発展・再開発に伴い、過去の記憶を留める貴重な文化遺産が次々と失われてきている。このままでは東京は“記憶喪失の都市”になりかねない。今回課題として設定する港区の「高橋是清翁記念公園」は、東京市（当時）が遺族より寄贈された高橋是清邸の土地と建物を公園として整備し、1941（昭和16）年に開園した都市公園である。その後1945（昭和20）年の大空襲で建物は失われたが、母屋だけは幸い空襲前に移築され、現在は小金井市の「江戸東京たてももの園」に主屋が保存・公開されている。この課題では、移築された建物をオリジナルの敷地に戻し、公園全体の再整備を行うことを設計条件として設定する。失われつつある“場の記憶”を未来に継承するための優れたデザインを期待したい。

課題 B 出題：萬代恭博

「神奈川県立図書館の既存建築を活用した増改築計画」

横浜市西区紅葉ヶ丘は、横浜港が開港された安政6年（1859年）に神奈川奉行所が設置された場所である。明治元年（1868年）、政府は神奈川奉行所を廃止して新たに横浜裁判所を置き、同年神奈川裁判所、神奈川府、そして神奈川県に名称変更された県発祥の地でもある。この記憶を受け継ぎ、神奈川県立図書館（1954年 設計：前川國男）は、隣接する神奈川県立音楽堂（1954年 設計：前川國男）とともに紅葉ヶ丘に建設された。本課題では、紅葉ヶ丘の公共建築群を敷地と設定し、神奈川県立図書館（本館）の保存計画そして駐車場を公園として活用する提案を行う事とする。敷地及び横浜市都市デザインの歴史と現状を学び、近現代の既存建築を活用した増改築の企画及び設計提案を行うことにより、新たな建築的価値とヘリテージ・デザインの実践について考察する。



ラ・サマリテーヌ / 妹島和世 + 西沢立衛 / SANAA



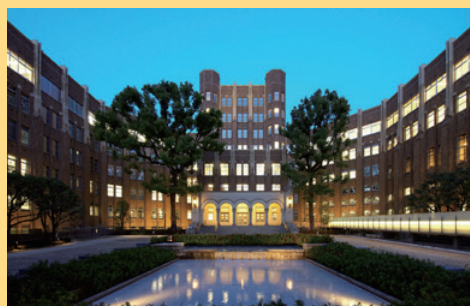
高橋是清翁記念公園 庭園遺構



神奈川県立図書館・音楽堂 / 前川國男



新橋停車場 / 復元活用設計：田原幸夫



港区立郷土歴史館 ゆかしの杜 / 保存活用監修：田原幸夫



横浜市の街並み